

白山

【日程】 2017年7月27日～2017年7月28日

【エリア】 白山

【形態】 ハイキング

【メンバー】 K岡、I藤

【報告】 K岡

《ルート／タイム》

7月26日

奈良発（19：30）～南条S/A（22：30）

7月27日（行動時間：約8時間30分）

南条S/A（5：30）～別当駐車場発（8：05）～甚之助避難小屋（10：25/35）

～室堂（13：20/40）～御前峰（14：30/50）～室堂（15：10）～南竜山荘（16：30）

7月28日（行動時間：約10時間）

山荘（5：20）～別山（8：45/9：05）～南竜山荘（12：10/30）～駐車場（15：30）

標高差：1498m 累積標高上/下 2865m/2959m（ヤマップデータによる）

《報告》

今回の山行は、6月10～11日チブリ尾根から別山を登り、下山時に南竜馬場のルートとする予定だったが、残雪が多く残念したコースを逆方向から辿るリベンジ山行である。

7月26日

予定より若干遅れて自宅を出発。別当出会いまで車を進めたかったが夜間走行が辛くやむなく南条S/Aで車中仮眠。大型車の入出の騒音や周辺の照明などでまどろむ程度の睡眠となる。これが翌日の登山に大きな足かせとなった。

7月27日

車で別当出会いまで入るが、早朝でもほぼ満杯の車の数である。前後に到着した登山者がひっきりなしに出発していく。登山センター広場の登山口を示めす大きな塔に張り付けられた「平成29年白山開山1300年」の幕が目を引く。

砂防新道を進み途中から登山者が少なくお花の多いエコーラインをとる。高温多湿な気候に昨夜の睡眠不足が祟り悪戦苦闘、青息吐息の出足である。半乾燥の自前の梅干しを何粒もかじり水分を補給しながら弥陀ヶ原の広い野原に来たときは幾らか体調がよくなった感じはしたものの、いつもの調子には程遠く最後まで尾を引っぱる辛い一日となる。

室堂でパンを食べながら疲れを癒していたが、心の内に潜んでいた弱根が口からポロリ出てしまう。「今日もしんどいのでここで止めようか？」と。相棒の I 氏は「パンを食うために室堂に来たのではない。一人で止めたら。私は一人で登り御前峰のピークを踏みます」と一笑に付される冷たい対応。休憩とともに少しは体調も良くなったことと相まって男の矜持が出て頑張りだす。その後の行程をほぼコースタイムに近い時間で歩き面目を取り戻す。

加齢とともに登山ペースは落ちるがコースタイムの 20%増のペースでも「ゆっくり歩けば遠くへ行ける」合言葉を肝に銘じた一日だった。

夕食時に思ってもいなかった方に会って吃驚。当山岳会のガイドの一人が、クラブツウリズムの団体のガイドで入山されていて偶然に久しぶりに再会したのである。

7月28日

昨日 5 時からの夕食後、疲れていたのもそのまま眠りこけて朝の 5 時前までぐっすり寝込んでしまった。体の節々が痛いエネルギーを感じる目覚めにホッとする。天気予報通り小雨みたいで外界は真っ白の濃霧。朝食は取らない予定であったので玄関でパッキングし梅干しとパンをかじり雨具を着込み直ぐに出発。

視界ゼロの濃霧のため地図の詳細を頭に畳み込みコンパスをセットする。I 氏は地図を読む技術が格段に良くなり、また、ヤママップとの併用で、何の不安もなく濃霧の中を歩きだす。南竜馬場のテント場を、昔大雨でテントの中が水浸しになったことを話しながら、高度を下げる。川を渡渉してそこからジグザクを繰り返して最後はほぼ直登の 2256m の油阪の頭まで一気に登りきる。昨日に比べ今朝は調子がいいようだ。そこから別山まで尾根筋を 100m ほどアップダウンを繰り返しながら進む。尾根筋はお花畑の連続で数か所、池塘もあり変化に富んでいる。チブリ尾根からのピークの御舍利山の東面を進み、通いなれたチブリ尾根からの稜線ルートに出ると直ぐ別山の頂上である。

頂上にいる数十分だけガスが晴れ、幸運にも白山の山容を眺めることができた。その後はガスが掛かったり晴れたり今の天気であるが、登るときに見えなかった景色をみながら一気に下山する。

心地よい疲れを遥かにオーバーした疲れを感じたものの、二日間で約 26 キロの歩行、行動時間約 18 時間、累積標高差 2900m の登降の手応えに十分な充実を感じた山行だった。